

平成 22 年
9 月 30 日

病害虫発生予報 10月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目次 >

. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

果樹共通(カキ・リンゴ):カメムシ類	1
抑制トマト:葉かび病	1
抑制ピーマン:アザミウマ類	2
イチゴ:ハダニ類	2
共通害虫:ハスモンヨトウ,オオタバコガ	3

【その他の病害虫】	4
水稻・ダイズ・ナシ・ブドウ・抑制トマト・抑制キュウリ・イチゴ・秋冬ハクサイ・冬レタス・秋冬ネギ	

. 病害虫ミニ情報

本年のナシ黒星病及びブドウべと病の発生状況と秋季防除について	5
--------------------------------	---

. 今月の気象予報	6
-----------	---

本文に記載された農薬の登録内容は、平成 22 年 9 月 22 日現在のものです。
最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報検索システム」(<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

果樹共通(カキ・リンゴ)

1. カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い~多い	県下全域

[予報の根拠]

9月中旬現在,チャバネアオカメムシの予察灯への誘殺数は,かすみがうら市で平年より多く,笠間市で平年並である。また,ツヤアオカメムシの誘殺数は,かすみがうら市で平年より多い。

9月中旬現在,主な生息地であるヒノキ林での果樹カメムシ類の発生量は平年よりやや多く,今後主要な餌であるスギ及びヒノキの球果が不足すると,果樹園への飛来が増加すると予想される。

9月下旬現在,カキにおける調査では,被害果を認めず平年並である。

気象予報によると,向こう1か月の気温は平年より高いと予想され,活動を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

夜温が高いと活動が盛んになり,果樹園へ飛来するので注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合には,活動が鈍い早朝に薬剤防除を行う。

薬剤は,薬液が果実にかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また,収穫前日数に注意する。

抑制トマト

1. 葉かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

9月下旬現在,発病度及び発生地点率は平年よりやや高い。

気象予報によると,向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想され,発生をやや助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難になるため,初期防除を徹底する。

罹病部は新たな伝染源となるため,病斑の多い葉は取り除き,ハウス外に持ち出して処分する。

薬剤は,薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また,薬剤耐性菌の出現を防ぐため,系統の異なる薬剤を散布する。

抑制ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い~多い	鹿行地域

[予報の根拠]

9月下旬現在、寄生花率及び被害果率は平年よりやや高い。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

アザミウマ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。また、各種ウイルス病を媒介するので注意する。

薬剤は、薬液が葉裏や花にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、同一系統の薬剤は連用しない。

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

9月下旬現在、被害葉率は平年並~やや高く、発生地点率は平年より高い。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。特にビニール被覆後は発生しやすくなるので、ビニール被覆前後の防除を徹底する。

薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、同一系統の薬剤は連用しない。

共通害虫

1. ハスモンヨトウ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	多い	県下全域

[予報の根拠]

9月下旬現在，フェロモントラップへの雄成虫の誘殺数は平年よりやや多い～多い。

9月下旬現在，ダイズ，ハクサイ及びネギで平年より多い発生である。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

圃場をよく観察し，幼虫の早期発見に努める。幼虫の齢期が進むにしたがって薬剤の殺虫効果は低くなるため，若齢幼虫のうちに防除を徹底する。

レタス，ハクサイ，キャベツでは，結球内に幼虫が入るとその後の防除が困難になるため，発生初期の防除を徹底する。

施設栽培では，出入り口や開口部に防虫ネットを張り，成虫の侵入防止に努める。

薬剤は，薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう丁寧に散布する。また薬剤抵抗性の発達を抑えるために，同一系統の薬剤は連用しない。

(平成22年9月16日発表の病害虫発生予察注意報第3号参照)

2. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	多い	県下全域

[予報の根拠]

9月下旬現在，フェロモントラップへの雄成虫の誘殺数は平年より多い。

9月下旬現在，抑制トマトで平年よりやや多く，レタス及びハクサイで平年並の発生である。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

圃場をよく観察し，幼虫の早期発見に努める。幼虫の齢期が進むにしたがって薬剤の殺虫効果は低くなるため，若齢幼虫のうちに防除を徹底する。

レタス等では，結球内に幼虫が食入するとその後の防除が困難になるため，発生初期ならびに結球始期の防除を徹底する。

トマト，ピーマン等では，収穫終期まで加害を続けるので，発生しているハウスでは防除を徹底する。

施設栽培では，出入り口や開口部に防虫ネットを張り，成虫の侵入防止に努める。

薬剤は，薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう丁寧に散布する。また薬剤抵抗性の発達を抑えるために，同一系統の薬剤は連用しない。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水稲	縞葉枯病	発生量： -	収穫後はできるだけ早く耕起作業を行い，害虫の越冬場所となるイネの株や雑草を無くす。(縞葉枯病はヒメトビウンカが媒介する。)
	二カメイガ		
ダイズ	紫斑病	発生量： 平年並	適期収穫に努め，収穫後は速やかに乾燥・調製を行う。
ナシ	黒星病	発生量： -	秋季防除を徹底する。落葉は翌年の伝染源となるので，適正に処理する。(p.5 病害虫ミニ情報参照)
	ナシヒメシンクイ	発生量： -	被害果は水に浸漬するか，土中深く埋めるなど，適正に処理する。
ブドウ	べと病	発生量： -	秋季防除を徹底する。落葉は翌年の伝染源となるので，適正に処理する。(p.5 病害虫ミニ情報参照)
	褐斑病		
抑制トマト	ハモグリバエ類	発生量： 平年並 ～ やや多い	9月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	タバココナジラミ	発生量： 平年並	9月下旬現在，平年並の発生である。
抑制キュウリ	ハモグリバエ類	発生量： 多い	9月下旬現在，平年より多い発生である。
	アザミウマ類	発生量： やや多い	9月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
イチゴ	炭疽病	発生量： やや多い	9月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	アブラムシ類	発生量： 平年並 ～ やや多い	9月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
秋冬ハクサイ	白斑病	発生量： 平年並	9月下旬現在，平年並の発生である。
	べと病	発生量： 平年並	9月下旬現在，平年並の発生である。
	軟腐病	発生量： 平年並	9月下旬現在，平年並の発生である。風雨が多いと発生が助長されるので，台風等の風雨の後には，防除を徹底する。
冬レタス	菌核病	発生量： やや多い	9月下旬現在，平年よりやや多い発生である。葉の基部を観察し，発生を認めた場合は初期防除を徹底する。
	腐敗病	発生量： 平年並	9月下旬現在，平年並の発生である。結球開始期に降雨が続くと発生しやすいので，初期防除を徹底する。
秋冬ネギ	さび病	発生量： 平年並	9月下旬現在，平年並の発生である。
	べと病	発生量： 平年並	9月下旬現在，平年並の発生である。
	ネギアザミウマ	発生量： やや多い	9月下旬現在，平年よりやや多い発生である。

本年のナシ黒星病及びブドウべと病の発生状況と秋季防除について

本年のナシ黒星病及びブドウべと病の発生経過は下記のとおりです。両病原菌は、被害葉などの植物体上で越冬して翌年の発生源となるので、今後の秋季防除を徹底しましょう。

ナシ黒星病

本年は、4月中旬の低温によりナシの開花が遅れ、黒星病の初発生も遅れました（図1,2）。しかし、5月に入り、平均気温が平年並に推移して幼果や葉に発病が確認されるようになりました。8月上旬以降、発病果率は平年と比べて高くなりました。

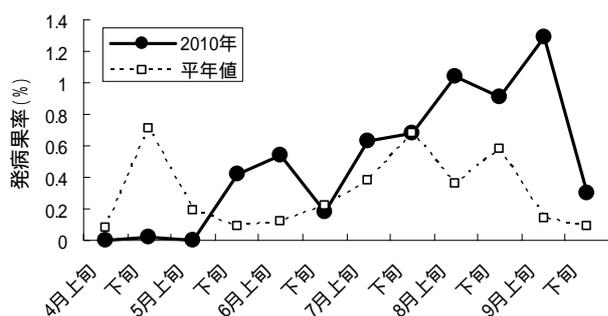


図1 ナシ果実における黒星病発生の推移

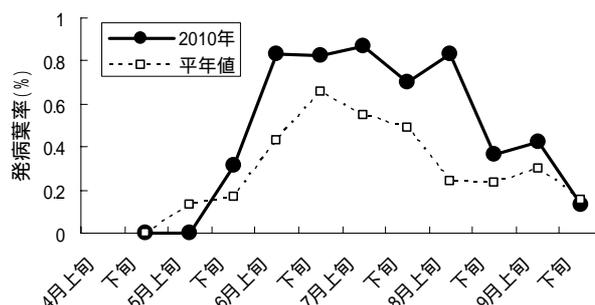


図2 ナシ葉における黒星病発生の推移

ブドウべと病

べと病は、例年8月下旬に初めて発生が確認されますが、本年は6月に初めて発生が確認されました。6月下旬～7月上旬は、平均気温が平年より高く、降水量が平年並となったため、発生を助長する条件となり、8月下旬まで発病葉率は増加しました（図3）。

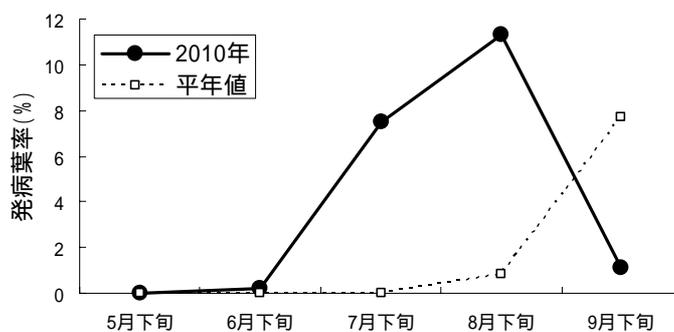


図3 ブドウ葉におけるべと病発生の推移

秋季防除

ナシ黒星病菌及びブドウべと病菌は被害葉上で越冬して翌年の発生源となります。また、被害葉は早期に落葉し、光合成量が低下して翌年の生育に影響を及ぼします。そのため、収穫後の秋季防除は非常に重要となります。

秋季防除として、収穫直後及び10月に、ナシ黒星病に対してはオキシラン水和剤等、ブドウべと病に対してはZボルドー等をかけむらのないよう丁寧に散布し、被害の拡大や早期落葉防止に努めましょう。また、落葉は集めて園外へ持ち出して土中深く埋めるかロータリー耕等を行い、土中にすき込む等、適切に処理しましょう。

・今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 9月25日から10月24日)

気象庁(9月24日 発表)

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	10	30	60
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	40	30	30

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。

< 1週目の予報 > 9月25日(土曜日)から10月1日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 50%

< 2週目の予報 > 10月2日(土曜日)から10月8日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 70%

< 3週目から4週目の予報 > 10月9日(土曜日)から10月22日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 50%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。